

応づま  
援くち  
基りだ  
金



MACHIDA CHALLENGE FUND

第1期（2024年8月～2025年5月）

# 最終報告書

---

町田市地域活動サポートオフィス

「まちだづくり応援基金」助成プログラムは、町田市内で活動する方を応援したいという想いを持った方からの寄付により設立しました。第1期は、8団体・個人に対して397,000円の助成を実施しました。

【実施期間】2024年8月から2025年5月

## 活動題目・助成金額・普段の活動内容一覧

### まちだのパブリックアート（街中で見かける彫刻・オブジェ）めぐり

NPO法人アートネットまちだ 50,000円  
代表者：齊藤 弥

普段の活動内容：

アートを通じて豊かな社会をつくる活動をしている。パブリックアートツアー、講演会、ワークショップ、情報発信、研修会、アトリエ訪問、交流会などを行い地域を知る、アートを広める活動を行っています。

### 素人でも大歓声を浴びる舞台を創る本気で本格的な演劇体験の創作

アマタメ企画 47,000円  
代表者：田之上 亜季

普段の活動内容：

町田市内で素人向けに表現活動をする場を企画しています。メイン活動は、素人だけで作る演劇（最後は発表）。その他に身体表現ワークショップ、ミュージカルダンスワークショップも行っています。

### 「町田で部活 大人も楽しむ部活動」サイト構築、広報の実施

代表者：近藤 弘晃 50,000円

普段の活動内容：

地域活動がまとまったサイトを作成しています。サイトから地域活動が探せたり、お知らせやイベント情報を閲覧することができます。地域活動を行っている人も自分たちの活動を紹介できますので、掲載についてご相談ください。

### 色彩表現によって心を元気にする活動

色彩心理グリーンハートラボ 50,000円  
代表者：牛尾 真澄

普段の活動内容：

色彩心理学に基づいた様々なセラピーぬりえを使ったグループワークショップ、及び色彩カウンセリングを行っています。

## 介護に携わっている人がモデルとして出演するファッションショー

代表者：鈴木 めぐみ 50,000円

普段の活動内容：

年齢・性別・障がいの有無にかかわらず誰もが好きなお洋服を着て自由に自己表現するファッションショー「ポリコレ」を開催。自分を表現することの楽しさを体験していただいています。

## 身近な地域で生の音楽・話芸・芸能に触れる機会を提供する

藤の台カルチャーBOX 50,000円  
代表者：吉崎 洋子

普段の活動内容：

年に2回程度のプロによるステージと年数回の小舞台を藤の台地域の施設で実施することを目指し、2024年に設立しました。活動を通して地域での世代を超えたつながりをつくり、活気ある地域へ寄与したいと思います。

## 2024年度まちカフェ！において、2名の外部講師による対話ワークショップの実施

まちいろドロップス 50,000円  
代表者：文平 光子

普段の活動内容：

人生や日常の中で出会うすぐに答えの見つからない問い合わせについて、いろんな人とゆっくり自由に考えることのできる哲学対話を中心に、さまざまな対話の場作りをしています。（オープンダイアログ、当事者研究など）

## 完全即興音楽を通じて聴く力と発信力を育てる

like minds 50,000円  
代表者：岩渕 貴子

普段の活動内容：

町田市を中心に、オープン・ダイアログをベースとした対話実践を行っている任意団体です。フィンランド発祥のオープン・ダイアログや、最小ユニットの当事者研究であるトライローグ、対面やオンラインでの当事者研究を通じて、困難を抱える方たちの声を聴き応答する場を提供しています。

助成先インタビューはこちら▶



# まちだのパブリックアート（街中で見かける彫刻・オブジェ）めぐり／ガイド冊子作成

## NPO法人アートネットまちだ



## 実施内容

### ●パブリックアートめぐりイベント

2024/11/30（土）

午前 @東急リバブル町田センター

①解説「パブリックアートについて その歴史と必要性」 NPO法人アートネットまちだ 齊藤弥

②講座「パブリックアートについて～「光の舞い」設置秘話～」玉川大学学術研究所 田中敬一氏

JR町田駅前の「光の舞い」設置秘話をはじめ、ファーレ立川のアートの街づくりの計画、町田総合体育館のオブジェの計画、設置など、講師が関わってきたパブリックアートの数々を紹介。また、今後のパブリックアートの維持管理、環境などの問題点にも言及した。

午後 ツアー「町田のパブリックアート鑑賞」@町田市役所

市役所前広場の「散策の径」を歩きながら像を鑑賞。作者についてのエピソードなどを紹介。また「非核宣言平和の碑」を前に町田市が平和宣言をしている市である事を再確認してそれぞれの思いを語りあった。参加者に本助成金で作成した「まちだのパブリックアートガイド」冊子を配布。

### ●展示会 @東急リバブル町田センター

「まちだのパブリックアートの紹介」パネル展示を実施

●「まちだのパブリックアートガイド」冊子の発行 町田市内15カ所のパブリックアートを紹介。

## 実施してみて

町田市内には今回紹介した他にもたくさんのパブリックアートがあり、今後も継続して紹介していきたい。ガイドブックを通して、身近にアートを感じてもらう。今後はアートmapの作成も手がけたい。

## サポートオフィスから

町田で初の「パブリックアートガイド」冊子を発行されたのは大きな一歩ですね！今後様々な場面で活用していただきたいです。アート作品を通じて平和や環境について考えるきっかけづくりにもなったイベントは、アートの可能性を感じました。今後の展開も期待しています！

# 素人でも大歓声を浴びる舞台を創る 本気で本格的な演劇体験の創作

## アマタメ企画



## 実施内容

練習5回、本番1回=全6回で行う演劇公演ワークショップ。参加キャストを元に物語を構成したオリジナル作品「ぐるぐる」を制作、上演。今回集まったキャストの5名は年代、性別がバラバラだったため「家族」の話を中心に台本を作成。

●稽古期間：9月～10月(2ヶ月間)  
隔週日曜日に1日2時間(10:00～12:00)を全4回。  
リハーサル10/19(土)13:00～18:00に実施。

●本番：10/20(日)  
1回目11:00～12:00、2回目14:00～15:00  
演劇公演(約15分)+身体表現ワークショップ(30分)

●身体表現ワークショップ  
演劇公演終了後、観客も交えて身体表現ワークショップを行い、興奮覚めやらぬうちに誰でもできる簡単なゲームを通して見に来てくれた人とも親睦を深めた。

＜参加者の様子＞  
参加キャスト：1回目の稽古ではまだ恥ずかしさや周りの様子を伺っている印象があり、初めて台本を渡した時には思った以上のセリフの量に「覚えられるかな…」と皆さん不安そうだった。しかし稽古回数を重ねるうちに演技者としての成長を感じ、本番では楽しくイキイキと、そして堂々と役を演じる姿が見られ、その思いは観客にも届いたのではないかと思う。

観劇したお客様の声：「お遊戯会かと思ったら全然違くてびっくりした」「皆さん生き生きとしていて感動した」「ほんとお上手なので1回で終わらせないでほしい。元気をもらった」

## 実施してみて

稽古回数は参加者の負担を考えて2ヶ月間しましたが、少なかったという反省が残っています。セリフを覚えてからの稽古回数があと1-2回あればもっと本格的な演技指導や深い部分まで落とし始めたのではないかと感じました。

サポートオフィスから  
出演された5人が得た達成感や絆はもちろん、観客も元気をもらえたという声が多く、表現の持つを感じました。会場であるまちの縁側・1丁目加々美さん家を中心に話題になり満員だったとのこと、素晴らしいです。これを機に、表現にチャレンジする方がさらに増えるといいですね。

# 「町田で部活 大人も楽しむ部活動」 サイト構築、広報の実施

近藤 弘晃



## 実施内容

「地域活動を紹介・発信・検索できるサイトを構築し、活動する人の周知、活動に興味のある人のつながりづくりに貢献できるように」ということを目標に「町田で部活」のサイトを構築。

まちだづくり応援基金では、WEBデザイン・チラシデザインを依頼し、魅力的なデザインを作成いただいた。



また、町田市市民協働フェスティバルまちカツエ！では「町田で部活」を紹介。名称や活動に興味を持ってもらい、ブースに8名ほど来てもらつた。サイトを見てもらつたり、チラシをお渡しすることができた。

町田で部活WEBサイトはこちら▶  
<https://machida-bu.com/public/>



## 実施してみて

今まででは自分でお金をかけずに作っていた部分もありましたが、基金を活用して地域の人にデザインを依頼し、素敵なデザインを作ってもらいました。今後は、サポートオフィスさんと協力して団体への掲載を増やしていきたいです。

## サポートオフィスから

内容がわかりやすく、地域活動への参加に対し前向きな気持ちになつていただけそうなWEBサイトですね。完成おめでとうございます！さらに充実した内容にするために、掲載団体を増やす方法や周知の計画を一緒に立てられたらと思います。

# 色彩表現によって心を元氣にする活動

## 色彩心理グリーンハートラボ



### 実施内容

#### ① 出張ワークショップ

##### ●8月2日「色彩心理ってどんなもの?~自由に色を楽しむグループワークショップ」

8月のワークショップは参加者の自宅で行ったためか初めからリラックスした雰囲気で、それぞれぬり絵を楽しみながらお互いの表現についても会話が弾んだ。またセラピストの経験を交えたミニレクチャーが好評で、セラピスト本人にとってもこれから成長の糧になるワークショップだった。

##### ●9月30日~4回目実施中「体調不良で仕事を辞めた40代女性を対象とした色彩カウンセリング」

継続した色彩カウンセリングは現在最終段階に差し掛かっていますが、回を追うごとにクライアントが抱えている問題が整理されてきたと自身で気付くようになり、「本当は仕事も辞めたくなかったし、職場が自分の居場所だったけど、体調不良でどうしても続けられなかった。皆さんに迷惑かけてしまうのが辛かった」と自分の気持ちを吐露できるようになってきた。

#### ② 他団体・個人との交流、協働

#### ③ カラーチャート作成のためのミーティング、プロジェクトチーム検討会

グリーンハートラボのメンバー全員で取り組んだオリジナルチャートを作成し、完成した。

グリーンハートラボでは今年度の目標として、メンバー個々人の力量を高めるために一人ひとりが自身でワークショップ又は色彩カウンセリングを企画・実施し、報告することを決めた。4月から開始する中で板橋や本厚木など遠方からの依頼もあり、メンバーの成長につながった。

### 実施してみて

まちカフェ!をきっかけに色彩セラピーに関心を持たれる方も多く、今年は体験セラピーの参加者が増えました。今後も私たちもさまざまな活動に携わる受講生から現場の情報に接し、新たな協働も生まれてくるのではないかと期待しています。

### サポートオフィスから

こまめに団体やメンバーのSNSで活動の様子を発信をされていたので、活動の様子を楽しみに拝見していました。多くの方に活動に触れていただき、協働の芽が育まれたことは大きな成果ですね。団体ミーティングの中で、早めに全員で目標設定をしたことが功を奏したのだと思います。今後の展開も応援しています!

# 介護に携わっている人が モデルとして出演するファッションショー

## 鈴木めぐみ



### 実施内容

ケアラーの方にモデルとして出演してもらうファッションショーを開催。  
好きな衣装を着て、モデル気分でランウェイを歩くことで、リフレッシュしていただいた。

ケアラーに出演していただくことはなかなかハードルが高かったが、新たな分野にチャレンジし、実績を作ることができた。

#### ●本番前の練習内容

- ・リアルウォーキングレッスン2回
- ・zoomによるウォーキングレッスン2回
- ・ファッションコンサル 1回
- ・ヘアメイクコンサル 1回

#### ●出演者の声

介護って疲れるし、マイナスのイメージがあるけれど考え方を変えて「笑顔でみてあげたい」と感じています。だからいつも着ないキラキラの洋服を着て楽しさをファッションであらわせてよかったです。大好きなフラダンスの衣装を着てランウェイを歩いたらあまり緊張せずにとても楽しく歩けました。

#### ●ファッションショーへの想い

主催者自身が両親の介護を通して「ファッションは人を元氣にする力がある」ということに気づきました。

普段頑張っているケアラーの方がオシャレを楽しむことでご自身の心のケアになるだけではなく、介護をうけている家族の方を元氣にする力があると確信しています。そのような想いからケアラーのファッションショーを開催しようと思いました。

### 実施してみて

出演者の方々の笑顔を見て「開催してよかったです」と思いました。事前説明会などの場を設けて、詳細や参加してどんなことが得られるのかなどお話することも必要かなと思いました。

### サポートオフィスから

まちカフェ！のステージで発表していただきました。出演された方々の姿や表情にはほぼれしました。ケアラーの方々に情報を届けるのは難しいと思いますが、今回の出演者の方々からも意見を聞いて次回の企画につなげられるといいですね！ファッションの持つ人を「元気にする力」を今後も広げてください。

# 身近な地域で生の音楽・話芸・芸能に触れる 機会を提供する

## 藤の台カルチャーボックス



### 実施内容

<地域で生の舞台を共に楽しむ>ことを目指して、立ち上げ方、資金の問題、会場の手当てなど、様々にシュミレーションをしていた時、具体的な一歩を踏み出すきっかけになったのが、この基金だった。

基金への助成申請にあたり、事前に出演依頼を打診し、窓口となっていたBobuさんに事情をお伝えして協力していただいた。

助成が決定してからは、チラシとチケットを作成し、ポスター、自治会ニュース等で広報して、地域の方を中心に参加チケットを購入していただいた。

当日は、大人子どもを合わせて100名以上が参加して、ミュージカルの舞台を楽しんでいただくことができた。

また、チケットの売り上げで、次の公演のめども立ち、継続した活動への道筋が見えてきた。

**<開催概要>**  
こころ踊る！ミュージカルソングの世界

日 時：2024年12月1日（日）14時開演  
場 所：開進幼稚園ホール

参加費：1200円（前売り・予約1000円）  
出 演：Bobu、宮原健一郎、松尾恵理

### <その後の実績>

- うまけん♪コンサート！  
2025年1月26日（日）開催
- 春よ来い！新春フルートアンサンブルコンサート♪  
2025年3月23日（日）開催

### 実施してみて

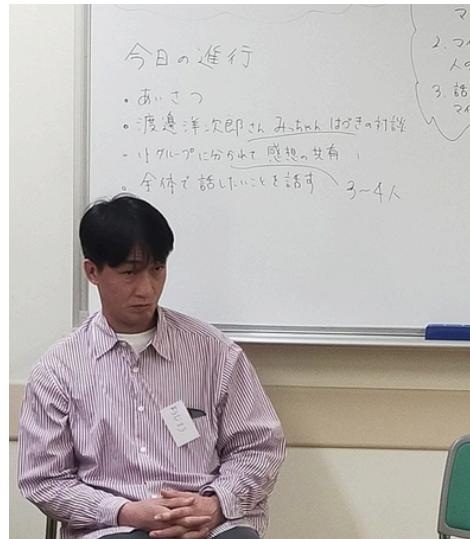
地域の人の繋がりがまだあることを実感した。また、新しい人との出会いもあった。アンケートを通して、地域の方々の要望も聞くことができたので、今後の企画に生かしていきたい。

### サポートオフィスから

主催者の皆さんの地域での人脈、アーティストとの人脈、イベント開催のご経験あってこそその企画だと思います。基金がはじめのきっかけになったようで嬉しいです。その後も続々と開催されているコンサートをいつも楽しみに拝見しています。文化で地域をつなぐ取り組みを今後も期待しています。

# 2024年度まちカフェ！において、 2名の外部講師による対話ワークショップの実施

## まちいろドロップス



### 実施内容

#### ●12月3日（火）「プレイフルカードを使った対話を楽しもう」

ゲストに岡田太陽さん（臨床心理士）にいらしていただき、ソウルクリーチャーズランド・ワークショップ（カードを使って自分の強み・弱みと向き合うワークショップ）を実施。

#### ●12月7日（土）「どうしたら「助けて」って言えるようになる？～対話を通して考えてみよう」

ゲストスピーカーに渡邊洋次郎さん（依存症回復施設職員、自身も依存症で、非行、自称行為等々の結果、少年院、精神科病院、刑務所への服役歴あり）を迎え、テーマについて、参加者と共に対話を実施。

今回開催したイベントのうち一つは土曜日開催（普段は平日開催が多い）だったということもあり、初めてまちいろドロップスのイベントに参加してくださった方も多くいらっしゃった。運営の私たち自身も、半分参加者の立場で楽しませてもらい、ファシリテーターが場づくりにおいて大事にしていることや配慮の仕方なども学ばせていただいた。

応援基金でサポートいただいたおかげで、普段の自分たちが実施している対話とは一味違う対話方法をお持ちだったり、依存症当事者という、なかなかお話を伺う機会のないお二人のゲストの方をお呼びすることができた。

### 実施してみて

より安心しながら対話の場にいていただくための言葉の選び方やファシリテーターの在り方を学べたので、今後の活動に活かしていきたいです。自分たち以外のゲストが進行する場だからこそ、客観的に普段の自分たちの活動を振り返る機会にもなりました。

### サポートオフィスから

参加者とともに主催者である皆さんにとっても学びや気づきの場になったことが伝わりました。場づくりやファシリテーションは正解がなく奥深いからこそ、定期的に学ぶ場が必要だなと、サポートオフィスのメンバーもいつも感じています！

# 完全即興音楽を通じて聴く力と発信力を育てる

like minds



## 実施内容

フリーインプロヴァイザー（完全即興音楽家）のさがゆきさんを講師に、加藤崇之さんをゲストに、さがゆきさんのガイドで、楽譜もなく、特定のメロディーを弾くのではない音楽による対話を実践するワークショップを行った。

導入は会場の床に敷いた新聞紙（タイムマシンブン）に寝そべって、自分が生まれたときに遡って、世間の垢を脱ぎ捨てた状態から音を出すというワーク。

そしていよいよ即興音楽のなかへ。誰かが出した音に対して自分の中で考えた音を出していき、また会場の空気や音の響きに呼応するように音を重ねていき、最後は、みんなの音が収束するのを感じて、音楽を終わりにする。これを、大きい音や強い音を使ったり、ささやくような音を使ったり、何人か組みになってやってみたりなど、条件を変えていろんなパターンで即興演奏を繰り返した。

参加者の最年少は小学生だったが、最初恥ずかしがって音を出さずにギターのソフトケースの中に座っていたのが、だんだんと音をだしたり、声をだしたり（声もボイスと呼ぶ立派な楽器）最後には、みんなの輪に入って演奏していった。

当初見込んだ参加人数は収支のバランスを考えての設定だったが、終わって振り返ってみれば会場のキャパシティや音響面だけでなく、相互のコミュニケーションとその効果を考慮すると最適な参加人数であった。

## 実施してみて

月1で行っているオープンダイアローグのワークショップの中でも、完全即興音楽の要素を生かしたアイスブレイクを取り入れるなどすれば、音楽と対話との関連性を意識してもらえるのではないかという気づきがあった。

## サポートオフィスから

「完全即興音楽」というあまり聞きなじみのない分野だからこそ、基金を活用して実施していただけてよかったです。今後の活動にも取り入れていただき、困難を抱える方たちの力になってください。皆さんの反応や気づきなど教えていただければ嬉しいです！

